

目的 名古屋市内においても集合住宅(マンション)の建設戸数は年々増加している。将来、都市の集合住宅に居住する可能性が高いと見られる短大生が、集合住宅についてどのようなイメージを描いているか、集合住宅についてどれだけ理解しているかを調査することによって、短大における集合住宅教育に対する手掛りを得ることを目的としている。第1報では調査の単純集計を報告したが、本報では環境イメージ、管理等について一戸建居住者と集合住宅居住者との比較、住居学履修者とそうでない者との比較を試みた。

方法 愛知県内の専攻系短大2校、600名を対象にアンケート調査。調査期間563年6月。有効回答数600。

結果 ①短大生は環境的に集合住宅をマイナスイメージでとらえている。一戸建居住者(87%)は、集合住宅居住者(78%)よりマイナスイメージが強い。②管理に関しては共用空間の理解度は共に高いが、バルコニーについては共に専有と解釈している。管理に関する語句については共に理解度は低い。ただし住居学履修者とそうでない者とは管理については差が見られた。③集合住宅のイメージについてはエレベーター、バラング等の設備的イメージに次いで高級住宅等感覚的にとらえている。④将来庭付一戸建を9割が希望しているが、6割は一度はマンションに住みたいという。

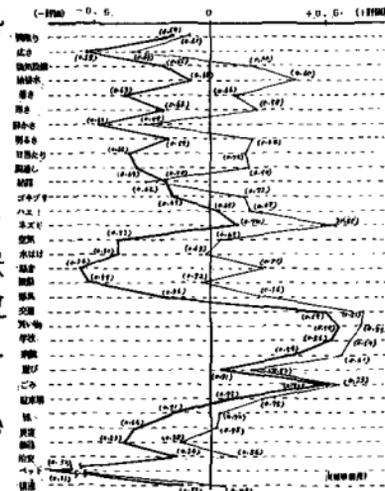


図1 環境条件の評価 (1) 住居学履修者 (2) 非履修者